

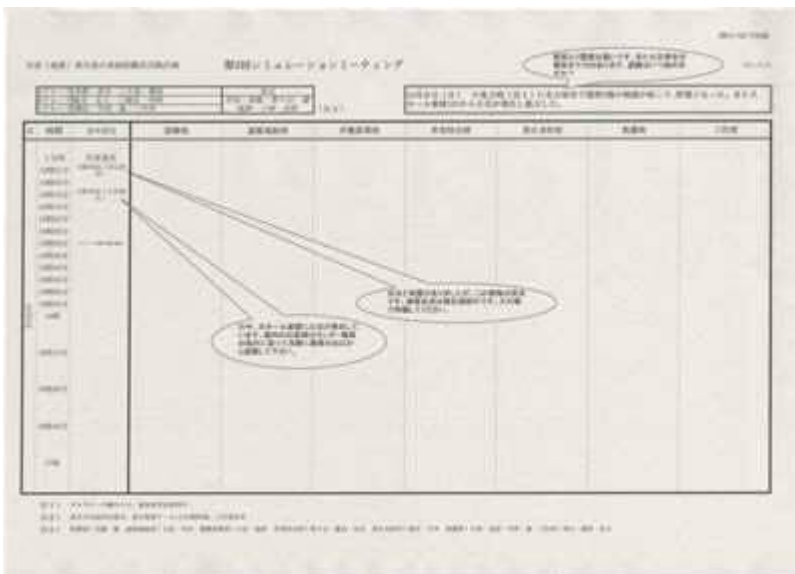
美術館は、お子様や高齢者の方々を含むたくさんのお客様をお迎えして展覧会を行なっています。

また一方でかけがえのない文化財をお預かりし保存する施設でもあります。

今年の3月11日は私たち美術館スタッフにも大きな衝撃を与え、今一度、館の防災計画を見直す契機ともなりました。

そしてまず復活したのが「シミュレーション・ミーティング」というものです。

これはいわば災害の仮想体験をしながら、個々の職員が自らをトレーニングする場であり、また既存の防災計画では、到底及ばないような、現実的かつ細かな部分について職員間で知恵を出し合い、話し合いを行なう場です。



↑ ワークシート。

これがそのワークシート。

出題者の「何月何日何時何分に〇〇規模の地震が発生し、センターの設備やインフラがこういう状態になりました。そしたら、その時、あなたは？」という課題に沿って、まず自分で行動予想を書き込みます。



↑ シミュレーション・ミーティングの様子。

みんな真剣でしょう？

美術館は土日も開館していますし、閉館日しかできない仕事というのもあり、美術館職員はローテーションを組んで出勤しています。その為、意外と全員が出勤している日というのが少なく、出張者が重なった日に事が起こると、少ない人数で対応しなければなりません。「今日、このミーティングに出席している職員だけで対応するとなると・・・」。毎回、条件が著しく異なるので、みんな、その都度、いろんな問題に直面する事になるのです。



↑ シミュレーション・ミーティング2。

その次にはグループで話し合い、グループの代表がみんなの前で発表を行います。

館内の平面図上で各自の行動経路を動かしながら行なう事もあります。複雑な構造ですので、奥まったところでお客様が倒れていないか、「それで漏れなく確認が取れるか」、先輩学芸員から厳しいチェックが入ります。



↑ 非常階段勉強会。

そのように仮想体験を重ねていると、毎回、いろんな問題点が出てきます。

センター上層の施設ですので、当然、避難経路は長く複雑になります。長く美術館に勤務している人間でも「覚えてるかしら?」、新人は「行ったことがない」というようなことが、ある時問題となり、今回は非常階段勉強会を行なう事になりました。



↑ 非常階段勉強会 2、3。

その他にも、「展示室監視員さんたちには、頭を守るものと懐中電灯は持っていらったほうがいいよね」「でも、展示室で、監視員の足元にヘルメットがゴロンというのは、あまり好ましくないよね」など、様々な意見の末、監視員さんの椅子の背もたれカバーと兼用できるような防災頭巾を考えました。



↑ 防災頭巾試作。

いえいえ、怪しいお兄さんではありません。その試作品第一号を検討している場面です。

ちなみに、こういうものも、友の会のお母様方のご協力を頂いております。

(N. N.)

* ブログ編集担当者より

雨降らずして、地固うする。